

大学・短期大学部卒業生、大学院修了生の皆さん、ご卒業、ご修了おめでとうございます。ご家族の皆さま、ご関係の皆様にも心よりお慶びを申し上げたいと存じます。あわせて、お忙しい中をご臨席賜りましたご来賓の皆様にも厚くお礼申し上げます。

卒業の時を迎えて、いま皆さんはどのようなことを考えているのでしょうか。在学中のさまざまなできごと、場面の中で、出会った友人たちのこと、自分の成長を実感したことなど、楽しかったこと、うれしかったこともたくさんあると思いますが、一方では辛かったことや苦しかったこともかなりあったことと思います。そうしたとき、皆さんはどのように対処してきたのでしょうか。

私の場合で言えば、何か困難にぶつかったときに、私はよく「まあ何とかなるさ」と無意識につぶやいています。何の根拠もなく何とかなると言うのですから、考えてみればまことにいい加減というか、無責任な話です。しかし、そう自分に言い聞かせることによって、ほんのわずかながら落ち着きを取り戻すことができる。それが対処の出発点になるわけです。

こうした習慣のきっかけになったのが、あるホテルマンとの出会いでした。所用で時々利用するホテルに勤めているその人物は、私などにはたいへん飄々と、ホテルマンらしからぬ対応をされるのですが、実際には一人一人の利用客をよく観察し、それぞれの客に合わせた対応をしているということがよくわかってきました。実際に、彼に対応していただくと、私は不愉快になるどころか、少し心が和むような気持になるのです。その彼が口癖のように言うのが「なんちゃなりますよ」という言葉でした。

一見適当な感じに聞こえるのですが、実際には彼は、非常に冷静に事態を見通して判断していることが、他の客への対応などを見ているうちにわかってきました。彼は非常な努力家であって、何百人という常連客の顧客情報とその性格や対応に関する好みをすべて頭に入れているということを他の従業員の方からも聞きました。その努力や経験の積み重ねが自信となって「なんちゃなる」という言葉になっているのだと理解するようになりました。

この域までくれば、「なんちゃなる」や「何とかなる」は単に気を落ち着かせる言葉ではなく、まして他力本願の言葉でもなくて、むしろ「何とかする」「何とかできる」という能動的、意志的な言葉とほとんど同じであるということができるといえるでしょう。私自身の「何とかなるさ」は、このホテルマンの「なんちゃなる」には、残念ながら遠く及びません。しかし、それでも、「何とかする」ためのささやかながら前向きの第一歩ではあると思っています。

ちなみに、物事を前向きにとらえるということは非常に大切であると思います。皆さんがこれまでに体験したであろう事柄から例を取りますと、試験で時間があと10分しかないというのに、まだ手を付けていない問題がかなりたくさん残っている。こうしたときに、「あと10分しかない」と考えるか、「まだ10分ある」と考えるかで、結果はずいぶん違ってき

ます。気持ちが後ろ向きになって萎えてしまうと、せっかく持っている力も発揮できなくなってしまいます。ですから、苦しい時、困難な時に、「もうだめだ」と思うのと、「何とかかなる」と思うのでは、大きな開きが出てくると思うのです。

皆さんの多くの方はこれから社会に出て、自立した職業人として生きていくこととなります。そこで出会うのは、学生時代よりはるかに大きな喜びであり、そしてもしかすると、はるかに大きな困難であるかもしれません。そうしたときに、ともかく「何とかかなる」と自分を落ち着かせるとともに、それが「何とかする」とできるだけイコールになるように、自分にさらに力をつけて行ってほしいと思います。

皆さんは在学中、教職員や友人たちと交わり、勇気や励ましをもらってきたと思います。しかし、卒業後の人生においては、大学時代とは比較にならないほど多くの、年齢やものの考え方、行動の仕方において自分とは全く異なる、多種多様な人たちと出会うはずで、そうした人たちと積極的に交わり、さまざまな体験を積む中で、「何とかする」力が育まれていくのだと思います。そのための基礎を身に付けてもらうために、皆さんの在学中、私たちも力を尽くしてきました。どうかその基礎の上に、豊かな他者理解と自己実現の花が咲き、実り豊かな人生となるよう、願ってやみません。

今回は栄養科学研究科を修了される方もいらっしゃると思います。研鑽が実って修士号を取得されたことに心から敬意を表します。学位は努力して研究を行い、成果を挙げたことの証しですので、誇りと自信を持っていただきたいのですが、学位取得は、これからの仕事の出発点に立ったということであって、これからのがいよいよ本当の真価が問われる段階です。人生100年とまで言われるようになった長寿社会の中で、人々の健康を支える栄養学の役割はますます重要になっています。これからの活躍を期待しております。

専門職大学院社会起業研究科の修了生の皆さんにも一言申し上げます。皆さんのうち多くの方はすでに社会の中で活動していらっしゃると思いますが、その傍ら社会企業研究科で研鑽を積み、その成果をもって学位を取得されたことに敬意を表したいと思います。日本の社会はこれから今まで体験したことのない多様化の状況が進み、課題もますます多様になっていくことと思います。名実ともに専門家となられた皆さんが、同時に地域社会の一員でもあることを忘れずに、大学院で学んだ知識や方法を十分に活かして、社会に新たな展望を示し、活力をもたらしてくださることを、大いに期待しております。

簡単ではございますが、以上をもちまして、卒業生におくる言葉といたします。本日はご卒業・ご修了まことにおめでとうございます。